

I. はじめに

II. 現状

III. 目指すべき新たな経済社会

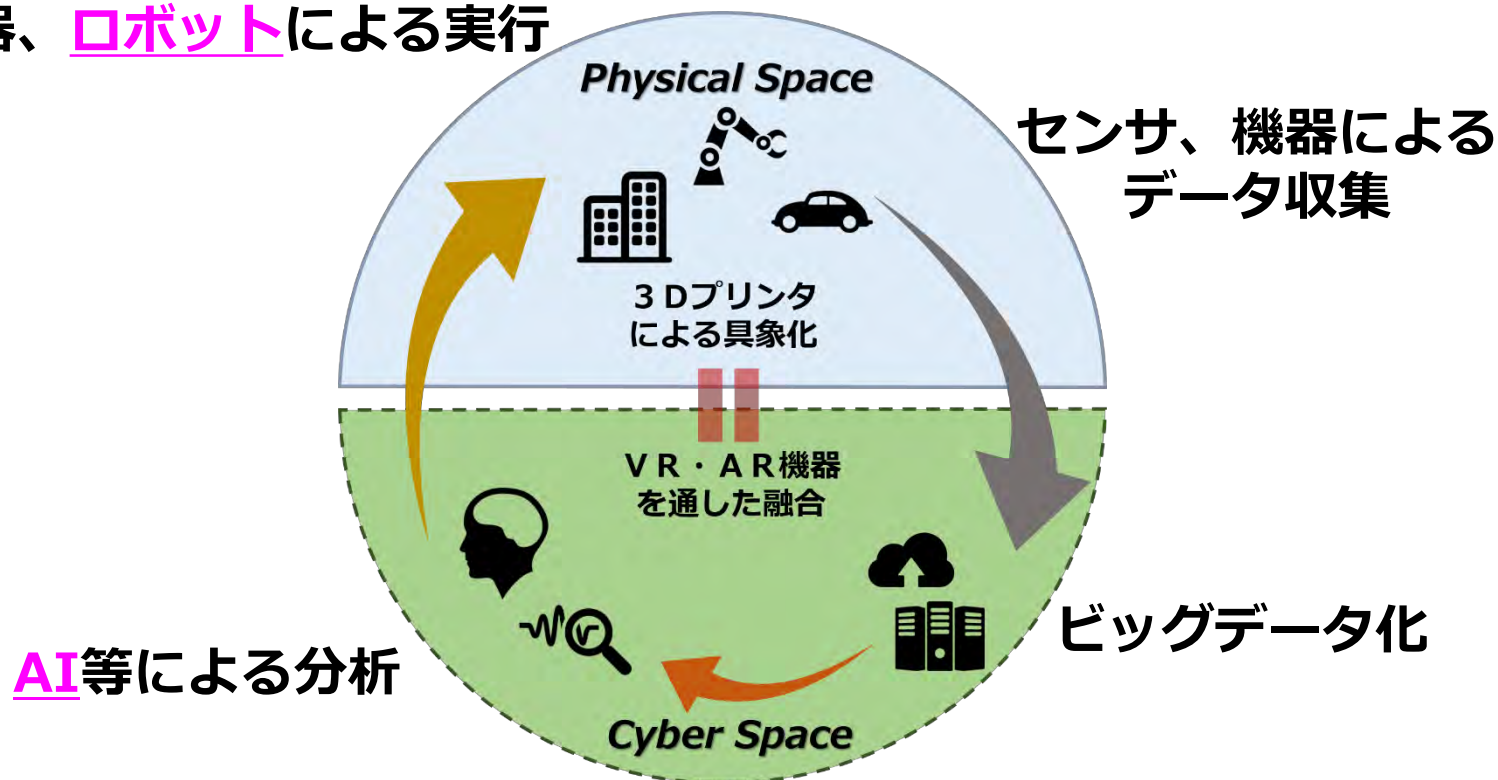
IV. 実現に向けた課題（壁の突破）

V. 産業界の取り組み

VI. おわりに

- ICTの急速な進化を背景とした、サイバー空間とフィジカル空間の融合（CPS）による新たな価値の創造が、変革を支える基盤。
- CPSを基盤にAI・ロボット等による価値創造も加速。

## 機器、ロボットによる実行



※ CPS：サイバー・フィジカルシステム

※ VR (Virtual Reality)：仮想現実  
AR (Augmented Reality)：拡張現実

- 欧米企業を中心に、革新的なビジネスモデルを創出。
- 従来の産業構造が大きく変化することも予想。

## 製造業の進化

- モノを売って利益を上げるのみならず、販売後のアフターケアを含めたサービス全体で稼ぐモデルへシフト。
- 個々の消費者ニーズに応じた個別大量生産を実現。



## コネクテッドカー・自動運転

- 「進化する車」の実現。スマホのように、車の機能をアップデートすることが可能に。
- 完全な自動運転の実現により移動中の車内がリビング化。



## ウェアラブル機器による健康管理



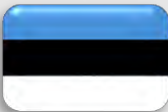

- 健康状態をリアルタイムでモニタリングし、分析結果を予防医療や治療等に活用。

## フィンテック

- ICTの活用により、既存の金融ビジネスの支援や、代替までも視野に入れた新サービスの提供が可能に。



## □ IoT等の重要性を踏まえ、各国で取り組みが進む。

国	特徴
ドイツ Industrie 4.0 	<ul style="list-style-type: none"><li>□ 2010年の「ハイテク戦略2020」において「Industrie 4.0」を公表。</li><li>□ IoTをはじめ最先端技術を製造業に活用し、工場を起点とした製造業のサプライチェーンや価値創出プロセス全体の革新によって、①付加価値の高い製品を生産する製造拠点としての競争力強化、②工作機械、製造に必要なモジュールを世界へ輸出する輸出拠点としての競争力強化 を目指す。</li></ul>
米国 Industrial Internet 	<ul style="list-style-type: none"><li>□ 2012年にGeneral Electricが「Industrial Internet」構想として提案。</li><li>□ 産業機器と分析ソフトウェアを結びつけることにより、コスト削減等の付加価値を創造し、製造業のみならず、ヘルスケア、エネルギー、公共、運輸を含めた5つの分野を対象。</li><li>□ 共通ソフトウェアである「Predix」の普及も目指す。</li></ul>
エストニア e-Estonia 	<ul style="list-style-type: none"><li>□ 2000年頃から、国家を挙げてエストニア全体の情報化を目指す「e-Estonia」政策を推進。</li><li>□ 15歳以上の国民にIDカードを配付し携帯を義務付け、オンライン公共サービスを推進。IDカードは運転免許証、健康保険証として使えるほか、会社登記、納税、3000を超える民間サービスにも活用。</li></ul>
シンガポール Smart Nation 	<ul style="list-style-type: none"><li>□ 世界初のスマート国家を目指す国家戦略「Smart Nation」に取り組む。至るところに各種センサーを張り巡らし、リアルタイムデータを各省庁が共有することで、安全で暮らしやすい国の創生を目指す。</li><li>□ 「Smart Nation Platform」に各種データを集約することで、利活用を推進。</li></ul>

# わが国の取り組み – Society 5.0 – Keidanren

Policy & Action

- 個社の取り組みは進むが、国家戦略は未整備。
- そうしたなか、第5期科学技術基本計画でSociety 5.0とのコンセプトが掲げられる。

